

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0870200961		
法人名	有限会社 フルハウスカンパニー		
事業所名	グループホームひまわり	ユニット名(ひまわり)	
所在地	茨城県日立市諏訪町1-20-18		
自己評価作成日	平成 31年 1月 5日	評価結果市町村受理日	平成 31年 4月 10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&JigyosyoCd=0870200961-00&PrefCd=08&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 茨城県社会福祉協議会
所在地	水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内
訪問調査日	平成 31年 1月 24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

歴史ある諏訪の閑静な住宅街にあり、お出かけレクでなか健康センター「演劇、舞踊ショー」を鑑賞。利用者様 職員が参加する等、地域の人々やひまわり畑で取れた無農薬野菜を収穫するなど、自然とのふれあいをもち充実した「なじみ」の暮らしを目指しています。利用者様の笑顔、心の安定を図るべく、芋煮会や自彊術の研修を受けたスタッフも対応。沢山の笑顔があふれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は市内で2番目に設立された歴史があり、市の介護保険課や地域住民からの突然の相談依頼に応じているほか、緊急対応のサービス提供にも努めている。ハローワークを介した高齢者の雇用促進施策(ジョブ・カード職業訓練制度)に積極的に取り組んでいるため、制度活用の成功事例として水戸商工会議所ホームページに掲載されている。2階には多目的スペースを設置し、広い空間で利用者の体操教室を開催したり、幼稚園や小学校が休みになる春、夏、冬休み期間中は託児所として利用しているため、子供がいる職員が働きやすい環境となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自立支援と社会参加を理念とし、自信を持って生活できるよう支援している。また、定期的に地域交流の機会をもち地域との連携を図っている。	月1回の職員会議時に、職員間で理念を確認し、日々の暮らしや年間行事を通じて、利用者が地域の住民として自立した暮らしが出来るように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り参加、芋煮会開催、お出かけレクなどを通じ、地域との交流を行っている。	生け花やドッグセラピー、折り紙教室などのボランティアを受け入れている。近隣住民とは、散歩のときに挨拶を交したり、事業所で行う芋煮会に参加をしてもらうなどの交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	避難訓練では、消防隊の方と共同で活動し、隊員の方にも認知症高齢者を知る機会となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、行政を始め地域代表、家族、利用者様の参加により、会議の都度、状況を説明。皆様にご意見ご指導をいただき有意義な話し合いをし、また身体拘束について話し合いをしている。	家族等の代表や利用者、市職員、民生委員等が参加して、事業所からの報告や、委員からの意見について話し合いを行っている。薬剤師が参加したときには、誤薬した際の対処法を指導してもらった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日立市介護相談員が来所、ケアサービスの取組を積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	市のソーシャルワーカーが来所した際に、利用者の金銭管理について相談をしている。管理者は市の介護保険課が開催する研修会や集団指導、事業者懇談会等に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束について定期的に学習しており、個人の尊厳を保持し、やむをえない場合に於いても代替する方法を模索している。	今年度は運営推進会議を通じて、参加メンバーの協力の下、身体拘束排除のマニュアルを整備した。3ヶ月に1回内部研修を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は3ヶ月に1回 部門ミーティング時マニュアルをもとに高齢者虐待について知識の向上に努めている。またご本人の状況の確認や、職員の言動、行動に注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は研修に参加し学び、権利擁護に関する制度を理解、活用し、1人ひとりに必要に応じて活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約などの際には、書面を使用し十分な説明を行っている。その際利用者や家族からの質問に対してじっくり話を聞き説明を行い、理解を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情相談受付窓口を明記している。職員は利用者や家族等から苦情や意見を聴き、ミーティングで検討するとともにサービスの質の向上に生かしている。	利用者からは日々の生活の中で、家族等からは来訪時に意見や要望を聞くようにしている。介護相談員を受入れ、利用者の話を聞く機会としている。家族等からの意見は少ないが、出た意見は検討し、実践している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は、職員と面談する機会を持ち、意見要望に迅速に対応している。	毎月の職員会議時や日々の話し合いの中で意見や要望を聴くほか、代表が年1回職員と面談をしている。職員からの意見で、居間のレイアウトを使いやすいように変更したり、加湿器を購入し、健康管理に役立てている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、研修の機会を職員に与え、キャリアパスと昇給がリンクした賃金制度を検討している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、研修に関する情報を職員に公表し他事業所の研修にも参加する機会を持っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会に参加し、交流を持っている。ケアマネジャーと研修会に参加し、意見交換を行うと共にサービスの質の向上に生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者やご家族の面会来所時に状況や要望等を良く聞き取り、統一したケアが出来るよう情報の共有を心がけている。24時間を通して細かな記録や申し送りをして安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会来所時、状況や要望等を良く聞き取り、統一したケアが出来るよう情報の共有を心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームにおいて、ターミナルケアを実施利用できる、巾のある支援、対応を見極め ご本人、ご家族が納得していただけるようコミュニケーションを大切にされた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は日々の生活の中で洋裁や野菜作り、生活の知恵、季節の行事のご馳走を作り、昔ながらの味付けなど、多くの事を教えてもらい利用者と共に学んだり、支え合う関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は本人の訴えている事を家族に伝えると共に、協力していただける家族との絆を大切に支え合う関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と密に連絡を取り合い馴染みの方々ととの面会場所の提供をしている。また家族や職員と共に外出するなど「会いたい人」「行きたい場所」は大切にして支援に努めている。	入居時に本人や家族等から聴き取りを行い、フェイスシートに記載している。職員と馴染みの店に買い物に出かけたり、家族等と外食や墓参りに行くなど、これまでの関係を継続していけるような支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の円満を保ち、皆が安楽に生活できるよう支援している。利用者様同士が関わり支え合えるように支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームより本人の強い希望で自宅に戻りたい利用者様がおられます。ハウス合同でお出かけレク、食事会を楽しみ相談や支援を継続中である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の訴えを傾聴し、問題解決のための話し合いを持っている。職員は生活歴を把握すると共に日々の生活の中で利用者様の残存機能やどのように暮らしていたのか思いや意志の把握に努めている。	サービス開始時のアセスメントや生活歴を参考に、暮らし方を把握するとともに、日々の関わりの中で思いや意向を汲み取るようにしている。七夕の日に思いや希望を聞き、思い出ノートに記載し、職員間で共有するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	カンファレンスを開き、把握に努めている。入居時にできるだけ聞き取ることにしている。職員が知らなかった生活歴を知ることによってどのように対応・支援していくのか参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員はADL把握に努め本人の生活や言動などにも注意を払い、気付いた点などを個別記録に記入し引継ぎを行い、情報を共有しながら本人の現状把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回部門ミーティング、研修会、カンファレンスを行い利用者様の意向に沿った介護計画を作成している。	利用者や家族等の意向や課題を把握し、計画作成担当者が職員と話し合って作成し、家族等に同意を得ている。3ヶ月ごとにモニタリングを行い、基本1年で見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は本人の生活や言動などにも注意を払い、気付いた点などを個別記録に記入し、引継ぎを行い情報を共有しながらケアの実践を行っている。またそれらを元に介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の要望に沿って、地域ボランティア活動への参加。訪問販売、買物などの支援をしている。また24時間の医療連携体制を生かして急な往診など、臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティア活動参加、芋煮会、運動会、演劇鑑賞、外食などホーム内だけでは無い楽しみの持てる支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、ご家族等の希望により主治医を決めている。月2回の往診の他、看護師による週2回の見守りなど、利用者様が適切な医療を受けられるように支援している。	利用者や家族等の希望するかかりつけ医への受診を支援している。専門科医への付き添いは基本は家族等であるが、現在は殆ど職員が有料で付き添いを行っている。協力医療機関の医師による訪問診療が月2回ある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は本人の体調の変化や身体の観察を行い、気付いた点などを個別記録に記入し引継ぎを行い看護職員へ相談、情報の共有を行い、必要な看護を行えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医により退院後の診察時、利用者様、ご家族様が安心できるよう情報交換を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所内で方針を検討し、統一したケアが出来るようにしている。重症化した場合や終末期のあり方について、ご本人、ご家族と話し合いを行い、ご希望に沿ったケアが出来るように支援している。	看取りを行う事業所であり、契約時に説明をしている。重度化した場合における対応や看取りに関する指針があるが、マニュアルを作成するまでには至っていない。職員は内部研修や外部研修に参加している。	看取りの実績があり、看取りを実践している事業所であることから、職員が活用できるマニュアルの作成を期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	承諾書作成捺印をいただいている。職員は看護師による研修会を受講して。また外部研修会へも参加、技術の向上に努めている。マニュアル作成(年1回見直し)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自動化火災報知器の扱い、通報の仕方の指導を受けている。職員は避難訓練を実施参加され利用者様が避難できる方法を全職員が身につけると共に地域との協力体制を築いている。	夜間想定を含む避難訓練を行っている。近隣住民へ参加の呼びかけを行っている。訓練後は反省会を行い課題について話し合っている。毛布や救急セット、非常持ち出し袋などの災害に備えた備蓄品を、一覧表を作成して管理している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者が自信を持って生活できるような声かけを心掛け、職員間で相互にチェックしている。	利用者への言葉かけに配慮している。個人情報に関する同意書があるが、肖像権について同意を得る記載をするまでには至っていない。人権尊重や守秘義務に関する研修を行うまでには至っていない。	肖像権に関する同意書の作成と守秘義務等の研修開催が望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より利用者様の訴えを聴き、気持ちを表出できない利用者様には丁寧な声かけをするように心がけをし、自己決定しながら生活できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れを決まっているが、利用者様一人ひとりが散歩、外気浴、カラオケ、笑い大会、旅行ゲーム、塗り絵など好きな事をして過ごすように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容に気を配って支援している。希望のある利用者には職員間で情報共有して対応している。定期的に床屋が来所し、散髪を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭きを依頼するなど、できることをしていただいている。職員は利用者様の残存機能を把握し一緒にできる事は手伝って頂き、職員は利用者様と共に食事を囲み、支援しながら食事をしている。	管理栄養士が献立の工夫をしているとともに、自家菜園の野菜を食材にしている。IHヒーターを導入し利用者が調理に参加しやすく、ホットケーキやフレンチトーストを作っている。年1回ドライブをかねた外食は利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の嗜好を考慮して水分摂取できるよう支援している。またトロミ、刻みなどで対応しているが不十分。食事の状況を確認し、ご本人の好みをなどに配慮しながら、バランスの良い食事の提供に心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアが不十分な利用者様には義歯の洗浄などの支援を行っている。また個々の利用者の状況に応じた口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンに準じて声かけを行っている。夜間の排泄の失敗が増えている利用者様には、見守りや声かけして対応している。	排泄パターンを把握し、声かけ誘導によりトイレでの排泄を支援している。OTによる機能訓練を実施するなどして、排泄の自立支援を行うことで、オムツの使用量を減らし、節減に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	意欲が低下している利用者への対応が不十分で、運動や日常生活動作見守り、薬に頼らず食物繊維が多い食材で対応している。車椅子の利用者様も手引き歩行など運動をして腸の働きを促進、予防。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個人の状況に合わせて入浴の支援をしている。歌を歌ったり、思い出を聴くなどして楽しく入浴できるよう支援している。	基本週3回午後からの入浴を支援している。浴槽に手摺を設置したり、リフト浴器械を使用している。ゆず湯、しょうぶ湯や入浴剤を取り入れて楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や希望を取り入れ居室の環境を整えたり、湯たんぽを使用して安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の副作用に対する理解が不十分で、利用者の体調変化に結びつけて考えられていないので、医師に相談し看護師からの指導を下に理解を深め、服薬の支援と症状の変化の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たみ、食器拭き、掃除などお手伝いいただくことで役割を持って活動していただいたり、散歩、笑い大会、旅行、ゲーム、ことわざゲーム、草花の手入れ、好きなことをして過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的にお出かけレクを企画し、利用者の希望を反映させている。散歩などの1人ひとり希望に沿って戸外に出かけられるように支援に努めている。	利用者の希望や体調に配慮しながらの散歩や、外気浴を支援している。近くのスーパーに散歩がてら買い物に外出している。年間行事計画を立てて、観梅やつるし雛、桜やあじさい、バラの花見など、季節毎に外出支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コンビニエンスストアの訪問販売の機会を企画し、利用者が思い思いに買物を楽しめるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書く練習を現在行っており、ご家族に出す計画を立てている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を生けたり、落葉を用いて壁紙を作成したりして季節を感じるよう支援している。	居間兼食堂は天窓から陽光を取り入れ、明るさを保ち、また喚起ができるように配慮している。加湿器を置き、湿度管理をしている。共用空間の壁には利用者と職員で制作したちぎり絵の作品や書道、カレンダーを掲示するとともに、季節の花を飾って居心地よくすごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席にて利用者同士が和めるよう話題を提供したり、居心地のよい環境作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者になじみのものを居室に置いていただき、居心地のよい環境を整えている。	利用者の使い慣れた物を持ち込んだり、家族等と相談して居心地よく暮らせるよう工夫をしている。家族の協力のもと、家族写真を掲示したり、ボランティアの生け花教室で活けた生花を飾るなどしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況を考慮し、残存能力を活用しながら安心安全な日常生活を心掛けている。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 グループホームひまわり

作成日 平成31年 4 月 5 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	夜間を想定した避難訓練を計画施行する。	平成31年度中に計画施行する。	夜間を想定した避難訓練を行い課題等の指導を頂き、今後に役立てる。	平成31年1月21日(月)実施
2	9	思いや意向の把握、日々の関わりの中で利用者の思いや意向をくみとり、フセンなどを利用し共有できる仕方で記録する。	記録を共有しくみ取った思いや意向をケアに活かす。	フセンを利用すぐに記録、工夫して共有できるようにする。	平成31年2月1日～令和元年6月30日
3	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援、重度化した場合や終末期のやり方について 早い段階から、本人ご家族との話し合いを行う。	ご本人、ご家族と話し合いを行いご希望に沿ったケアが出来るように支援する。	職員が活用できるマニュアルの作成をする。	令和元年4月5日～令和元年12月31日
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。